

□ はじめに

- 子どもの権利は自分で選択する権利
- 一人の人間としての権利がある主体であるという文
(この条例の主役は子どもであるというのは一方的な文に見える)
- おとながこどものためにどうするかを載せる
- 市や大人はこどもが権利の主体として尊重される社会を実現するために子どもとの対話を通じてこの条例を実行していきます。
(大人の決意を入れたほうが良い)
- この条例を制定することによりどんな青梅市を目指すのかという文言を入れる
→条文に入れたい。
- みんなに知ってもらい…
修正☐他の言葉に変える(違和感がある)
- みんなの願いでは文の視点がこども目線。はじめにでは大人の視点。大人への声としてかかれていたほうが本質的。
- こどもたちにとって…
修正☐こども若者市民(大人)が共に考えてつくりました。
(みんなの願いのみんなが誰なのか上記で説明できる)
- こどもの意見を聞いて受け入れて尊重してほしい
修正☐ こどもの意見を聞いてその意見に対する大人からの意見も聞いて尊重しあえるようにしてほしい
(片方の意見を全部聞いて尊重されるよりどっちも言い合ってどっちも尊重しあえるほうがいいから)
- ・こどもの意見を聞いて大人の意見も聞いてお互い受け入れて尊重する。
- 今後、この条例をみんなに知って…1年ごとに見直し
(具体的にどのような会議体でどのようなプロセスで見直すのか具体化)
- こどもと一緒につくったことを明記。意見や思いを受け止めただけではない。

岡崎リマインドみんなの願い☐こども達の願い(みんな同じ願いとは限らない)

□ 自分らしさ・個性・挑戦・失敗が認められ意見が尊重されること

- どんな時でもこどもを信じる大人であってほしい
(大人に信頼してもらうために何かをするわけではないため)
- 失敗しても私たちにとっては貴重な経験であり、宝物だから責めて欲しくない。
(失敗は成功へのヒントにつながり、ステップ過程である。)

・こどもの意見を聞いて受け入れて尊重してほしい

☞修正 大人のサポートも必要だと思うのでサポートという言葉を入れてはどうか

・似たような文が多い。ニュアンスが微妙に異なるので全部載せるということであればその旨を入れたほうがいい。

・失敗しても私たちにとっては、宝物だから責めて欲しくない。

☞修正 なぐさめサポートアドバイスをしてほしい。

・みんな同じでなくていいまわりと比べないでこどもが自分らしく生きる権利を大切にしてほしい

(同じような意味。まとめてもいいのでは?)

・☞修正 誰が守らなくてはいけなかが不明確 学校などの公的な施設が守ることと、親が守るべきことが混在している。明確に分けるべき。

・失敗しても～宝物だから責めて欲しくない

(宝物だから←何が宝物なのか明確に)

・失敗しても～

(大人にどうしてほしいのかを明記してほしい)

・こどもが意見しやすいような環境をつくってほしい

(そもそも意見を聞く理解する以前に意見しやすい、話しやすい環境をつくらないとこどもは自分の意見を話せない)

・子供の将来とかを ☞ 子供の将来や考え方 に修正

☐ 安心安全・まちづくり・社会環境

・家の中で大人はこどもの拒否を素直に受け入れなければいけない

(こどもの自立を妨げる 家の中で居場所が無くなる)

・子どもの意見を積極的に聴き、対話をとおして青梅市を共に作って子どもの参画を進めます。

(子どもの意見を聞くから共に作るにしているため)

・市全体、地域で子どもを見守ってほしい

(地域出の見守りが身近であり、目が届きやすい)

・「～してほしい」という文が多い。「しなければならない」ではだめか

・市全体となって子どもを見守ってほしい ☞ 社会も地域も行政も

☐ 居場所

- ・家以外で子供が健全な大人と関わる場所が欲しい
(大人も色々どの様な大人か明記したほうがいい)
- ・暑い中でも子どもだけで遊べる場所が欲しい
(夏の子どもの遊ぶ場所に困っているのは深刻な問題)
- ・地域全体で関わる居場所を作る
(～したいではなく、作るとしたい。)
- ・修正☐ 夜間も【安全な】居場所が欲しい
(夜こそ安全な居場所があるべき)

☐ 学校・教育

- ・勉強の内容が誰にでもわかりやすくして欲しい
(苦手な教科があるとき理解が難しい生徒が一定数いると考えたから)
- ・教育の場は学校だけでなく、多様な学びの場を
(文言が学校が主体となっている)
- ・()の中を消し、子ども時代の成功体験と失敗してもまた挑戦することが重要。
- ・学校(ならびにフリースクール)で得意なことを活かせる場を設けて欲しい
(学校のみであると、不登校の子供の得意なことを活かせる場がなくなってしまうから。教員の負担が大きくなりやすいから)
- ・子どもが主役というが具体的にどんな権利と義務を想定しているのか?
例) 校則は毎年こともたちが見直して作り上げる
- ・自分が一番になり、中心になって活動ができる場
修正☐ 上記の内容が良いととらえられる。一番じゃなくても得意を認められる場。
自分が夢中になれることができる場。
- ・学校で得意な～(小さいころに一番に中心になって)
修正☐ 競争や争いを助長する 輝ける場などの表記が良い

☐ いっぱい遊んでいっぱい休む

- ・削除☐ ゆったりゆっくり時間が流れる・・・
(休むがゆったりゆっくり時間が流れることと違う)

☐ 追加

- ・ ☐ 大人がこんな風に保障します。
前文に大人が保証していくことも載せる。こどもの願いも両方載せる
- ・ ☐ おとなの決意

☐ 全体通して

- 子どもが希望する内容と表現になっているが、本来は子供の権利を確保するために大人が努める内容、表現にすべき。

- 全ての項目に他の行政にはない内容や表現を入れる。

(他の行政条例文のいいとこどりではなく、前回の会議で出た青梅らしさ、特徴がみられない)

- こども・子ども子供の表記を統一。 同様の意見もう一つあり

- 子どもの思いと大人の決意を分けて入れたい

して欲しい～を並べているので大人の決意サポートの視点も入れたい。富田林市のおとなの決意をそのまま入れては？

- ①～⑤の順番再検討

- 全体の主語を入れる

(誰が述べているのか不明、大人がこどもにむかって宣言するのか子供が宣言するのか両方なのか)

- 「〇〇してほしい」という文になっている。「〇〇する」「〇〇を目指す」という能動的な文にしたい。

(条例の前文というよりもこども若者から大人世代あるいは管理する側とか為政者への要求文に読める)

- 大人側を否定する表現は避け何が理想なのかポジティブな文にしてほしい。

- こどもはこう思っている⇨大人はこうします という構成にする。

(現状要望書になっており、見方によってはわがままを言っている様に見える。富田林市の例を参考に。

- 子どもも大人も平等に評価尊重してほしい

(全体的にこどもの尊重のみ書かれており、大人の否定が目立つため)